

令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録（第5回）

日 時：令和7年9月11日（木）午後6時00分～午後8時

出 席：大槌(会長)、加藤(副会長)、内金崎、長谷川、小笠原、岩元、能村、森、広瀬
(敬称略)

欠 席：小林

傍 聴：なし

事務局：高木(西砂学習館係長)、水崎(西砂学習館職員)

1 開会挨拶（会長）

(会 長)：本日(9月11日)は、激しい雷雨のため停電した時間があった。そのような場合の対処法について考えていた。西砂小学校の学校運営協議会の時間(午後3時半)には雨が止んでいたの、自転車で行くことができてよかった。
西砂小学校からの通りと昭島に行く通りのあたりに、GLPの関係者らしい制服を着たガードマンの女性が立っていた。朝と夕方の登下校時に子どもたちを見守ってくれているようだ。交通量が増えてきているのでありがたい。
今年度の地運協活動が後期に入ったため、前期の反省をしつつ今後の取組について皆さんで検討したい。

2 協議、報告及び連絡事項

(事務局)：資料確認。資料3～6の西砂サマーイベント資料は、会長の力作でもあるし、参加できなかった委員の皆さんにも見ていただきたいのでお配りした。

(1) 第4回運営協議会(7/8)の会議録(案)について

(事務局)：修正点等がある場合には、2週間以内(9月25日まで)に事務局に連絡をお願いする。(資料1)
事務局で【立災防】→【立災ボ】に修正する。

(2) 地域活性化講座について

①「西砂サマーイベント～夏休みは西砂学習館へ行こう～」の実施状況等について

(事務局)：資料2を基に説明。

【3事務局の評価等】について

現時点では、事務室に砂川学習館係と西部連絡所の職員が在席しているが、今後移転や廃止などで、シルバー職員と西砂学習館職員のみになる。職員が手薄になること、また猛暑であることから、事業規模や実施時間について私見を述べた。読み飛ばしてもらってもいい。

(会 長)：サマーイベントの反省ができる機会はこの会議以外にないので、皆さんから忌憚のない意見を伺って、来年に向けて考えたい。

事務局から、来年1月以降は職員3人とシルバー職員1人で運営することになるとの報告があった。事務室に職員1人は必ず置かなければいけないため、事業規模の見直しについて提案されている。しかし、この事業は、地域の子どもの夏休

みの居場所、自由研究の補助（化学講座）等に課題があることから始まった。もちろん、職員体制から負担増については理解できるので、講座を成立させるための人員が不足するのであれば、この事業の意義を説明して、地域の青少健にボランティアを依頼したり社協の学生ボランティアを早い時期から確保したりすることが必要となるだろう。講座数を減らすことよりも、まずは人員を確保することから考えたい。それでも実施が困難であれば（事業縮小を）検討する。暑さによる講座の時間・短縮など、配慮が必要だと思われることがあれば、そのことについても意見をいただきたい。

（委員A）：今年の講座は、子どもたちが喜ぶ内容のテーマだった。往復の移動は大変だが個人的には午前・午後継続して行ってほしい。学習館の中は涼しいため、暑さを理由に時間短縮するのは残念だ。また、昼食を準備しなかったことは心配したほど障害にはならなかったようだ。それぞれが親御さんの工夫されたお弁当を持参し、楽しそうに食べていた。

（委員B）：参加者の状況を見ると、6年生が1人しかおらず高学年が少ない。しかし、8月15日は高学年の参加が多いため、児童は個別に講座を選んで参加できているようだ。高学年向け、低学年向けと主催者が予想して組む講座があってもいいかもしれない。8講座という数が適当なのかは、検討の余地があると思う。

（委員C）：4講座に参加した。確かに、席に座ってられないお子さんがいると、講座の進行上誰かがつきっきりにならないといけないから、大変であることは実感した。だからといって、講座数を減らすことは、この事業の趣旨からいって寂しいことだと感じる。

松中小では「くるプレ」がはじまり、高学年はそちらで学習するのもかもしれない。高学年には選択肢が広がった。ただ、低学年は保護者が車で送迎する場合が多いので、駐車場が整備され、冷暖房が完備しているこの事業が選ばれやすいのだろうと想像する。保護者にとっては、地域の大人が見守ってくれるため安心して子どもを送り出せるし、自分もほっとする時間ができていると思う。その意味でもこのイベントは貴重ではないか。

（委員D）：当初は、「地運協（委員）で実施する」という思いが強かったが、近年は事務局が関わりすぎていたように思う。人員が不足しているのであれば、委員の当番を「最低4人」等と決めるのもいい。そうすれば、青少健等の手伝いも不要だと考える。

「ともだちをつくろう！」講座を手伝ってくれた人は、武蔵野美術大学の名誉教授だが、特におおげさな紹介は必要ないとのことだったので、補助として参加してもらった。「ともだちをつくろう」のような体験講座は、3年生以上くらいでないと、本来の狙いや気づきを得ることが難しくなると講師とも話をした。この講座だけでなく「子どものための音楽会」の国立音楽大学の学生も、低学年の対応に苦労していたように見えた。

（会長）：各講座の当番を4人確保することは各委員にとって負担でもあるので、この活動を外部の人に知ってもらい、支援者を拡大することがいいと考えている。青少健など、地域で子どもを育てるネットワークを広げることが自分たちの役割ではないか。自分たち委員が出席することが前提というのはいいいが、さらに大学生も含め

新たな支援者を開拓することに意義があると思っている。

(委員D)：自分はその意義を今まで意識していなかったし、自分たちだけで実践しようと考えてきた。学生ボランティアは非常にいいし、会長が言われることは悪くはないと思う。

(会長)：講座内容によって対象学年を変えることは、大きな課題だと思う。次年度講座が決まるときに、学年を分けることを議論したい。今年は、トランプゲーム等確かに、低学年には難しいと思われる講座もあったが、それぞれの講師が全学年で成立するように内容を考えてくれた。講座によっては、高学年のみであれば学びが多かったのかもしれないが、1年生でもまがりなりに体験して得るものがあったと思う。

(委員E)：7月の2日間参加した。昨年までは、昼食づくりのために地域のボランティアと一緒にワイワイやってきたが、今後自分たち委員だけで講座をやりきることは難しいと思うので、地域の人に手伝ってもらう形がいい。昼食は、保護者ががんばってカラフルなお弁当を持たせていたので、昼食の提供がなかったことは講座参加のさまたげにはならなかったようだ。送迎時に、地域の人に関わっていることや学習館が子ども向けの活動をしていることを知ってもらえて、感謝の言葉を言ってくれる人がいた。講座の形（午前・午後）はこのまま続けてほしいが、講座の対象学年は講師のお考えやご意向を第一に考え、内容によって変えてもいいと思う。

(委員F)：手伝いとしては3講座しか出席できなかったが、毎年違うことをしているので楽しかった。しかし、来年以降も夏休みには松明まつりの準備や片づけがあり、すべての講座に参加することは自分も難しい。講座は何年生向けのように設定してもいいかもしれない。

(委員G)：今回のサマーイベントは、業務のため1度も参加できなかった。夏休みは、低学年（特に学童保育所に通う児童）の利用が非常に多かった。低学年の子どもがいても保護者の就労率があがっていることから、子どもの行き場所が少なくなっている。だからこそ、学童保育所が過密状態だし、松中小の「くるプレ」もいっぱいだ。来年度は西砂小でも「くるプレ」が始まる。

配慮を要する児童の話があったが、児童館では日々接している。今の子どもの状態について、地域の方に良きにつけ悪きにつけ、知ってもらえるきっかけになったという思いはある。児童館では、夏休みに細かいイベントをたくさん行った。最も気を付けたことは、乳幼児向け、低学年向け、高学年向け等、バランスよく実施することだった。サマーイベントも講座の内容によって学年を分けてもいいと思う。また、昨年から児童館・学童保育所で、小学校の教員（昨年2人、今年1人）を実習生として受け入れている。小学校側が、中堅教諭、新人教諭の研修を外部で実施する取り組みを近年行っている。そのことを踏まえて、教員にサマーイベントを紹介したり、場合によっては参画していただいたりできないかとふと思った。

(委員H)：「ボッチャ」講座のみ参加した。自分もすべての講座に参加することは難しい。この事業の継続的な実施を考えたときに、地運協だけで実施することはやはり無理だと考える。「このような地域にしたい」と考えることがこの会議で、「実働部隊」は地域に眠っていると思う。地域の中にこのイベントが周知されて、手伝ってくれる人が増えると、継続的に事業を実施していけるだろう。

今年のサマーイベントの実人数50人、延べ人数248人というデータを見ると、参

加者はテーマごとに講座を選んできているようだ。親のレスパイト（休息、息抜き）、子どもの居場所というだけではなく、子どもの学び、体験、発見の機会だという捉え方をされているようだ。「子どもの居場所確保」ということから始まったこの事業の経緯はあるが、興味深いテーマを用いて講座を実施していけば、終日行わなくてもいいという考え方もあるだろう。

一番町の「にこにこサロン」は、地域の人に参画してもらっている。そこでスタッフと子どもが顔見知りになり、地域で子どもに話しかけられたそう。地域の中で「この人知ってる！」ということになると、「何か」が生まれるかもしれない。地域の中に見守ってくれる大人がいると知ってもらうきっかけになることを考えると、自分たち（地運協委員）だけでなく、地域のかたに子どもを見てもらったり、接点をもってもらったりすることは大切な視点だと思った。

（会長）：来年度のサマーイベントをどのように考えていくか。検討事項は、講座内容、学年、支援者の確保になる。アンケート結果も参考に考えていきたい。

参加した理由

楽しそうだから（118人）、家の人や友達に言われたから（82人）、
家から近いから（68人）

イベントを何で知りましたか

（学校でもらった）チラシ・ポスター（88人）

どんな講座なら参加したいか

工作系（11人）、イスとりゲーム（9人）、室内ゲーム（5人）、運動（4人）、
化学（4人）、調べる学習（3人）、マインクラフト・みんなであうたう・将棋大会・
いろんな楽器を吹く・折り紙（各2人）

②地域活性化講座の準備状況について

（事務局）：資料7を基に説明。

ア 地域再発見（地元を学ぼう！）

（事務局）：広報10月25日号に掲載し、10月28日（火）から電話または電子申請で受付を開始する。申し込みが芳しくない場合は、立川第七中にチラシを配布し親子参加可能にする。

（委員E）：講座内容が西砂川の成り立ちだし、砂川学習館ではなく西砂学習館で実施するので、講座名は「もっと知りたい！西砂川の成り立ち」がいい。

（事務局）：きらり・たちかわで、「もっと知りたい！砂川の成り立ち」で掲載しているので、講座名の変更は難しい。

イ 西砂ウィンターイベント

（事務局）：午前 書き納め、書き初め習い（西砂書道愛好会）

午後 正月にふさわしいモノづくり（大根田和美さん）

午前・午後ともに講師には依頼済。内容は未定（今後調整する。）

ミニ映画会、学習支援は行わない。

ウ にしすな親子塾

(事務局)：日時 令和8年2月15日または22日(日)の午後

会場 西砂児童館

対象 松中小学校・西砂小学校 児童

内容 アロマ石鹸づくり

講師 アロマクラフト講師 亀田晴奈さん

材料費 200～300 円の予定

(委員G)：講師は、立川市内で、親子でほっとできる場所、集える場所をたくさん作りたいという目標がある。ワークショップを通じて、親子の楽しい時間を提供したいというコンセプトだ。費用や手軽さなどから、「アロマ石鹸づくり」を提案してくださった。講座時間が2時間で設定されているので、1時間×2回講座も可能。材料費(実費)は参加者負担となるが、児童館では、ハーバリウム講座で材料費500円徴収した実績がある。

(会長)：副校長の考えによっては、材料費を徴収する場合はチラシを学校に配布できないことがあったが、500円以内であれば問題ないと思う。

(事務局)：昨年度の親子塾でも、100円徴収している。

(会長)：作成した成果物を持ち帰れること、高額ではないことを考えると、参加者が納得できる金額だと思う。

エ 西砂川での災害を考える

(事務局)：前回(7月8日)の議論により、今年度の実施は見送ることとする。

③西砂シアター(案)について

(事務局)：資料8を基に説明。

「西砂シアター(仮)」として、都立図書館所蔵の16ミリフィルム映画会を実施したい。これは、他の学習館で同様の映画会を頻繁に実施しており、この地域から、その学習館に鑑賞に行かれた方からの要望があったことから検討した。地域活性化講座であるため、委員の皆さんにご了承いただきたい。作品は、都立図書館から無料で借りられるため、子ども・大人に偏らず、交互に選ぶなどしたい。映画選定の助言をいただければ、それを基に検討していきたい。令和7年度は4回、令和8年度は9回実施する予定。

(会長)：西砂地域の方からの要望があり、西砂学習館で映画会を実施する運びとなったことはとてもありがたいことだ。

(3) 各委員からの報告及び連絡事項について

(委員)：2サークルに参加しているが、8月を夏休みにして良かった。高齢者にとって今年の夏の暑さは堪えた。そのため、来年も8月は休むことになった。

行政と市民推進委員会が協働で行った「ファシリテーター入門」講座(3回)に参加し、会議の進め方などについて学んだ。市職員にも参加してほしかったが、業務の関係で難しかったようだ。従来型の教育のように、教師が一方的に教えて知識を詰め込むのではなく、参加者を中心に学習していく形態で「短く話そう、よく聞こう、書きとめよう」ということを毎回言われた。テーマも3回とも興味深いテー

マが設定されて、満員で面白くいい講座だった。

(委員)：西砂パソコン倶楽部は、施設が確保できなかったこと、暑かったことから会議のみ行った。

9月9日(火)～11日(木)市民企画講座「Word入門」。若い年代の方が多く参加され、3日間とも全員が皆勤賞だった。また、来週(9月15日の週)は、女性総合センターAIMで「Excel入門」講座を実施する。

個人的には、今年は松中小の「子ども未来塾」の手伝い、サマーイベント等があり、忙しい夏だった。サマーイベントでは、家族が講師を務めたこともあり、緊張したが無事に終了してよかった。会長が作成された資料を、イギリスのご両親にもビデオ通話で見せていた。ロボット講座の講師も、地域でこの活動をしていることは素晴らしいことなので、今後も機会があればまた協力したいと言ってくださっている。

サマーイベントに参加した1年生の男の子が登下校時に自宅の前を通るので、挨拶を交わすようになった。地域の子どもを見守る立場として、子どもの顔が1人でもわかり、うれしく思う。

(委員)：きらり・たちかわ秋号が9月16日発行される。特集は「立川市第3次スポーツ推進計画」が策定されたため、ポッチャとモルックを採りあげた。表紙の写真は、①(モルック)シルバー大学モルック講座の卒業生によるサークル活動中のもの、②(ポッチャ)市内12地区体育会に取材したときに車いすの方がいらしたので、写真撮影を許可してもらったもの

を使用した。裏面の図書館連載は、錦図書館の順番になり、今回で地区館は終了した。冬号の中央図書館で連載が終了する。情報広報部に新しい人がひとり加入して3人になったので、新しい発想で皆さんに手に取っていただける紙面をつくりたい。

(委員)：市民企画講座の3枚のチラシ(①戦後80年ノーベル平和賞受賞・記念講演～伝えつづける被爆者の願い～、②今、日本文化を～浮世絵の魅力、③今考える ヒトラーとナチ・ドイツ)を配布した。それぞれ評判がいい講座なので、すぐ定員を満了すだろう。

(委員)：③の講座の講師は、NHKの世界の映像等を監修する人で、ドイツ近代史に関して有名な東京大学名誉教授だ。現代は、ヒトラーの時代に似ていると言われている。その意味でも興味深い講座なので、お時間があれば参加してください。

(委員)：市民推進委員は、以前は30人前後いたが、現在は10数人に減っている。そのため、講座数は減っているが、様々なジャンルを模索して講座を行っている。

(委員)：「第21回立川市地域福祉市民フォーラム」のチラシをお配りした。社協と高齢政策課が協働で実施する。「フェーズフリー」とは、普段使うものやサービスを、日常と災害時の両方に役立つものにしていくという概念のこと。市民の皆さんに参考になるお話が聞けると思うので、お時間があれば参加してください。

(委員)：長い夏休みが無事に終了した。熱中症がらみの事故がなくほっとしている。子どもたちにとって(暑さのため)外遊びができないストレスはすさまじいものがある。そのため、スポーツ学を学んだ若手職員の提案で、ラジオ体操カードを作りラジオ体操をすることにしたら、からだやこころにハンディがある子も全員取り組んだ。その後の40分の学習は全員集中してできていた。

8 月は多くのイベントを実施したが、学習館と協働して行った「子ども平和学習」は印象深い。広島に原爆が投下された日に、立川で起こったことを絡めて話された講座だったので、参加した 27 人はそれぞれがなにかを受け止めてくれたようだ。子ども食堂が児童館で実施されたり等、大人も子どもも出入りが多い中で、児童にさまざまな体験を提供することができたと考えている。

9 月は、一番町東団地自治会に協力いただき、28 日（日）の防火訓練に 10 人の児童が参加する。申込んだ保護者に参加の理由を聞くと、「地域の人に子どもを覚えてもらえる」という思いもあるとのことだった。児童館主催で、子どもを連れて外出することは初めてなので、この企画がうまくいったら、12 月の西砂地域の防災訓練にも参加しようと考えて、防災担当の方と打ち合わせているところだ。

（委員）：松明まつりが終了した。当日と翌日は準備と後片付けにかかりきりになったが、松中小は校庭が広いし、近隣に団地があるので、来場者も多かった。アクシデントもあったが、皆で頭を使いながら対処していくことが大切なので、それにより今年度の青少健はまとまったと思う。

11 月 3 日に行われる「中学生の主張大会」の作文を 10 編選出するために、青少健で読んでいる。SNS やスマホの使い方などの題材が多いが、中には感心する内容のものもある。一方で chatGPT を使ったと思われる作品もある。良く書けている作文は、字がきれいで力強いと毎年思う。

（委員）：立川第七中の職場体験の受入先を委員の皆さんから紹介していただいたおかげで、来年 1 月の職場体験はいい状況で行えそうだ。今後ともよろしく願います。

文化会では、8 月 10 日に西砂会館で音楽祭を実施した。カラオケ、津軽三味線、コーラス、コントラバス演奏、立川第七中の吹奏楽などが披露され、西砂会館にあれば大勢の人が来られるのは初めてだということで大成功だった。

立川第七中の吹奏楽部が、東京都大会の小グループ部門で金賞を取り、全国大会で山形まで行くそうだ。演奏しない生徒にとってもいい経験になるため、全員連れていくと教員から伺った。10 月 5 日に立川第七中で事前演奏会が開かれるため、自治会支部長と相談して壮行会を開くことになった。全国大会出場は保護者にとってうれしいことだが、遠征費用の負担があることから、地域でも支援したいという思いで、演奏会終了後に「お気持ち」をお願いすることになった。

（事務局）：ファシリテーター講座の最終回に参加した。ファシリテーターという言葉だけ聞くと難しく感じるが、グループメンバーの意見を聞きだす役割で「合意形成」を図るスキルを学ぶことができた。

8 月 6 日には、西砂児童館で平和学習を行った。児童にとって難しく興味を持たれないテーマだと思われがちだが、身近でおきた戦争被害の話をしてくれるため、毎年子どもたちは自分事としてとらえてくれる。今後も市内の児童館を訪問し、継続していきたい。一般で参加してくれた家族が小学校の教員だったので、「小学校でも同様の講座ができますよ！」と学社一体のアピールをしてきた。また、今回初めて松明まつりを見学させていただいた。サマーイベントに参加してくれた数人の児童に声をかけられ、少しずつこの地域になじんできたことをうれしく思う。

（事務局）：中学生平和学習の広島派遣事業については、事故もなく無事に終了して安心し

た。今後は事後学習会や報告会準備会を行い、年明けの教育フォーラムでの発表に向けて準備していく。

平和人権事業「戦後 80 年 立川から考える戦争と平和（北エリア編）」。西砂学習館では、10 月 11 日に実施する。併せて館内で展示も行う。

砂川学習館は 11 月 20 日のオープンを予定していたが、1 か月程度延期し、現時点では 12 月 20 日内覧会、12 月 24 日に開館予定となっている。

西部連絡所は、市議会の総務委員会において廃止についての反対意見が出なかったことから、予定通り 12 月 26 日をもって廃止となる。廃止後の跡施設の活用については、当館には市民スタッフルームがないので、新たに設置し 8～10 人程度で打合せをするスペースとして活用する。

令和 5 年度に中規模改修を行い全館 LED 化したが、6 本残っていたため、今後 LED 化の対応を早期に進めていく。

施設予約システムが、来年 1 月に新システムにリニューアルする。新システムは 5 月の予約分から対応する。詳細は、利用者説明会等でご案内する。

(会 長)：中学校に人権作文の提出をお願いしている。1,000 作文を 10 人の人権擁護委員で読む（委員 1 人が読む作文は 100 作文）。その中から 2 作文を選出する。集まった 20 作文に順位をつけ、多摩西協議会に提出する。そこで選ばれた作文が都大会に行く。毎年思うことは、大人に読んでほしいということだ。作品の中に「大人はスマホから目を上げない。電車でどのような人が乗車してくるかわからないのに、お年寄りに席を譲ることもしない。」というものがあつた。まさにその通りで、日頃の行いを反省するところがあるのではないか。そのような素晴らしい作品も多くあるので、目にする機会があればお読みください。

資料 10 の西一元氣通信について

1 頁目：学習館まつりのアンケートのまとめ

2 頁目：西砂サマーイベントの紹介

3 頁目：サマーイベントのアンケート（原文のまま）、地域学校コーディネーターとの意見交換会について

4 頁目：地域の資源、行事、方言等の紹介

学習館および地運協は、地域の良さを広く知らしめる重要な役割を持っていると思う。今号では盆、松明まつり等を紹介した。

新聞なので情報量が多く字が小さくなってしまうが、時間をかけて読んでほしい。

2 人の委員に、校正をお願いする。気づいた点は事務局へ連絡してほしい。

(委員)：色を全体的になくしたほうが良い。二色印刷は、字が読みにくいなど綺麗にできないので、できるだけシンプルにしたほうが良いと思う。

3 その他

○次回の地域学習館運営協議会の日程について

※次回開催；次回（第 4 回）は、令和 7 年 10 月 17 日（金）18:00～

<配布資料> ・資料 1 令和 7 年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録(第 4 回)(案)

- ・資料 2 「西砂サマーイベント～夏休みは西砂学習館へ行こう～」実施状況について
- ・資料 3 2025 サマーイベント 令和 7 年 7 月 22 日（火）実施状況（大槇会長作成資料）
- ・資料 4 2025 サマーイベント 令和 7 年 7 月 29 日（火）実施状況（大槇会長作成資料）
- ・資料 5 2025 サマーイベント 令和 7 年 8 月 5 日（火）実施状況（大槇会長作成資料）
- ・資料 6 2025 サマーイベント 令和 7 年 8 月 19 日（火）実施状況（大槇会長作成資料）
- ・資料 7 令和 7 年度 地域活性化講座の実施状況等について
- ・資料 8 西砂シアター（地域活性化 16 ミリフィルムロードショー）について（案）
- ・資料 9 令和 7 年度 第 1 回 西砂川地区地域学校コーディネーター及び西砂学習館運営協議会委員の情報・意見交換会 議事録（案）
- ・資料 10 西一元氣通信 第 14 号（2025 年 9 月発行）

チラシ① 立川市生涯学習推進センター主催

【戦後 80 年】立川から考える戦争と平和 北エリア編

※西砂学習館では、10 月 11 日（土）に講座がある。

チラシ② 立川市生涯学習推進センター主催

地域活性にしき映画会 砂川闘争 70 年